



～牛群管理プログラムの活用で迅速なデータの取得が可能に～  
酪農経営の改善を目指します

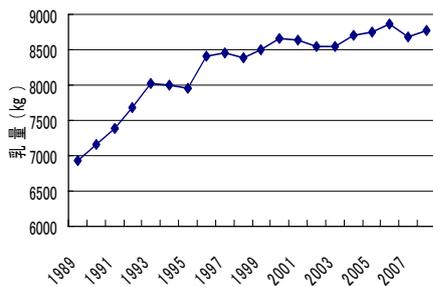
牛群検定とは、乳質、飼料給与状況、繁殖記録などの様々な各酪農家の牛たちの情報を分析・加工し、飼養管理、遺伝改良、繁殖や疾病管理などに反映させ、酪農経営改善につなげていくものです。

牛群検定の流れとしては、各酪農家から得られる毎月の牛群情報を青梅庁舎で加工・分析し、家畜改良事業団へ送り、事業団で「牛群検定成績表」としてまとめられ、このデータをもとに経営改善に役立てていきます。牛群検定データの活用により、年々ほぼ着実に都内酪農家の乳量は伸びてきました。(グラフ参照)

従来は、各酪農家の情報を家畜改良事業団へ送ってから検定成績表として手元に戻るまでに2週間程度かかり、その時点での酪農家の実状と検定データとの間に時間差が生じていました。

しかし、平成20年度より家畜改良事業団において試験運用を始めた「牛群管理プログラム」を活用し始めたことにより、事業団に農家情報を送った翌日に検定成績表を入手できるようになり、酪農家の実状により則した迅速なデータの取得及び酪農家への経営改善方策の提供が可能となりました。

酪農経営を取り巻く環境は大変厳しい昨今ですが、牛群検定データをより有効に活用し、さらなる酪農経営改善に努めていきます。(畜産技術科)



都内検定農家の年間平均乳量の推移  
(経産牛1頭当たり)



青梅庁舎での  
機械による分析の  
様子



## ～ナシの‘稲城’・ブドウの‘高尾’に続く新しい東京の特産品～



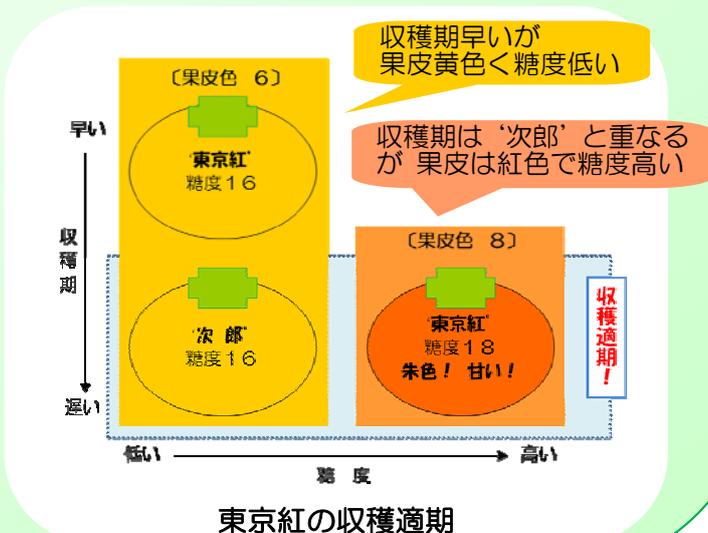
### カキ‘東京紅’を紹介します

収穫の秋，味覚の秋を楽しむものに果物は欠かせません。東京ブランドの果樹にはこれまで、良く知られているナシの‘稲城’，ブドウの‘高尾’がありましたが，カキにはありませんでした。

そこで，東京都では昭和44年から富有，晩御所，花御所を元に東京都の特産品となるカキの育成をしてきました。そして，平成17年，農林水産省から種苗登録が認められ，カキ‘東京紅（とうきょうべに）’が誕生しました。名前の示す通り，濃い紅色が印象的な完全甘カキです。

‘東京紅’の特性は，収穫始めが10月下旬からと‘次郎’，‘富有’より10日前後早く，甘柿が都内小売店に多く出回る前に収穫でき，また，多く出回る頃には紅色も濃くなり，糖度も更に上がることで。さらに，果実は大きく（約250g），甘味も強く，果皮は橙朱色で赤みがあり，直売で消費者に好まれる果実品質を持っています。

食欲の秋，カキ‘東京紅’をご賞味ください。（園芸技術科）



## トルコギキョウ「伊豆大島E3号」が品種登録されました！

東京都農林総合研究センターで育成したトルコギキョウの新品種「伊豆大島E3号」が，平成21年7月31日付けで，品種登録されました。

トルコギキョウは，伊豆大島を中心に生産されていますが，夏の暑い時期に種をまくと休眠して茎が伸びない状態（ロゼット）になり，収穫できなくなることがあります。当センターでは，突然変異育種法により，ロゼット化しにくい品種の開発に取り組み，ロゼット化率が1割以下の弱ロゼット性品種「伊豆大島E3号」を育成しました。

この品種育成にあたっては，東京都島しょ農林水産総合センターと共同で研究を行い，伊豆大島で品種検討会を行って栽培農家から意見を聞きました。現在は後継となる弱ロゼット性品種を開発中で，今後はこれらを交配親として用い，種苗会社の協力を得ながら，弱ロゼット性で様々な色・形をもつ品種の開発を試みていきます。

（園芸技術科）



「伊豆大島E3号」



ロゼット化したトルコギキョウ



伊豆大島での品種検討会の様子

## ～都内農産物の安全安心のために～ 農薬の新しい分析技術を検討しています

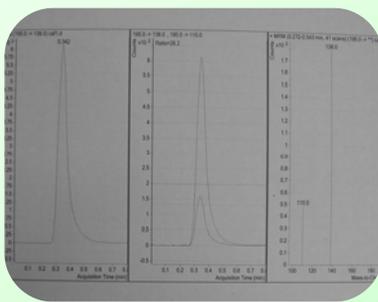
農産物に残留している農薬の成分やその濃度を調べるためには、主に液体クロマトグラフやガスクロマトグラフという分析機器を使用して測定します。これらの分析機器は昭和40年代から普及し始めましたが、現在では性能の進歩が目覚ましく、従来の煩雑な操作は簡便になり、分析精度も格段に向上してきました。

そこで、農薬・安全性研究チームでは、都内の生産現場でよく使用される農薬の成分分析において、こうした分析機器の性能を十分に引き出し、迅速かつ一度に多くの農薬成分を高精度に分析できるように、その分析手法の確立に向けた取組みを進めています。近い将来には、より安全な農産物を生産するための技術開発において、これらの分析手法は有力な手段になるものと考えています。

(生産環境科)



ガスクロマトグラフ  
質量分析計



クロマトグラム



高速液体クロマトグラフ  
タンデム質量分析計

## マレーシア森林研究所所長が来所



これは、昨年11月にクアラルンプールで開催されたアジア大都市ネットワーク21の第7回総会に出席した石原都知事が、マレーシア森林研究所を視察したご縁で、団体表彰を受けた第14回日経アジア賞授賞式のために来日した折に当所に立ち寄られたものです。保科所長が意見交換等を行うとともに所内各施設を案内し、科長及び研究員が研究内容を説明するなど交流を深めました。

(緑化森林科)

マレーシア森林研究所 (Forest Research Institute Malaysia) のダトー・アブドゥル・ラティフ・モハマド所長が5月22日に当センター立川庁舎に来所しました。

写真右から3人目がモハマド所長



センター内にて研究員の説明を聞く

## ～食品技術センターの活動～ 研究成果発表会・講演会のお知らせ

食品技術センターでは、センターの研究成果や都内食品産業各社の製品等を広く都民の皆様にご理解いただくために、また食品衛生啓発のために以下のようなさまざまな活動を行っております。

◎食品技術センターの成果発表会・講演会を春・秋の年2回行っております。(参加無料)

10月16日(金)13:30～16:30。「大豆加工素材の性状および製パンへの利用」他食品研の研究成果3題。情報提供として「潤滑油による食品事故防止のために」併せて、(独)畜産草地研究所の木元広実先生による「健康維持に役立つ乳酸菌についての最近の話題と製品開発」の特別講演も行います。乳酸菌の老化抑制や免疫調節作用など私たちの健康に関わりのあるテーマをわかりやすくお話しいただきます。



技術者研修会

◎食品関連産業に携わる方々を対象に技術者研修会を年4回行っております。(有料)

次回の予定は、11月12日(木)9:30～16:00「第76回 食品製造工程における汚染の簡易検査法」です。

◎Ifia(国際食品素材/添加物展・会議)へ出展しています。

毎年、東京ビッグサイトで開催される展示会に、パネルや商品のサンプル等を展示しています。

◎事業説明および見学会を実施しています。(随時)

各催しには申し込みが必要になります。

申し込み方法や詳しい内容は、食品技術センター 電話：03-5256-9251 にお問い合わせ下さるか、ホームページ(URL: <http://www.food-tokyo.jp/>)をご覧ください。皆様のご参加お待ちしております。(食品技術センター)

来て!見て!体験!

“平成21年度農林水産フェア”の案内

平成21年10月24日(土)  
9時～16時

例年ご好評を頂いております農林水産フェアを本年度も立川会場・青梅会場の2か所で行います。多くの方に楽しんで頂けるイベントを計画しておりますので、皆様のお越しをお待ちしております。

**立川会場 (立川市富士見町3-8-1)**

JR青梅線西立川駅下車徒歩約7分

●園芸教室(植木・花き・野菜等) ●各種体験(バイテク実験・木工教室等) ●農畜産物の販売(野菜・花・卵・地酒等) ●試験研究の成果(野菜プランター・花マット等)



**青梅会場 (青梅市新町6-7-1)**

JR青梅線小作駅東口より西東京バス三ツ原循環で10分「平松北」下車徒歩3分

●家畜ミニ動物園 ●乳しぼり体験  
●ソルゴ迷路 ●畜産物の展示販売  
●骨密度の測定 ●東京都乳牛共進会



(発行者)東京都農林総合研究センター 保科次雄

財団法人 東京都農林水産振興財団 東京都農林総合研究センター

〒190-0013 東京都立川市富士見町3-8-1 TEL 042-528-5216 FAX 042-523-4285

<http://www.tokyo-aff.or.jp/center/index.html> 皆様からのご意見・ご質問・ご要望をお待ちしております。